

- I. 日時：平成 22 年 10 月 2 日（土） 13 時 30 分～15 時 45 分
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局・会議室
- III. 出席者：武藤委員長、市丸委員、井上委員、酒井委員、中川委員、石崎委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

IV. 議事概要

1. 学士力実現に必要な ICT 活用の具体的な検討について

前回の委員会において、列挙された以下の 3 つの学士力の実現をめざす ICT 活用授業の開発モデルの例示についての検討を行った。

- ①学士力 1、3 の学びの動機づけから実践までを行う教育モデル
 - ②学士力 5 の栄養マネジメントを身につけさせるための教育モデル
 - ③学士力 4 の食事・栄養療法について科学的根拠で説明する能力をつけさせるための他大学や病院との連携による教育モデル
- ①③について、2～3 つの事例を研究して、まとめていく方向で今後、この委員会を進行していく。

【学士力 3 について】

- 1) 学士力 3 の到達目標である食環境づくり（食情報・食物確保・食の消費と安全など）の必要性を理解し、実践できることについての教育モデルとして、栄養教育実習の一環として、実施された内容が提示された。
企業と大学が連携し、ヘルシーメニューの弁当を企画・販売した。
その効果として、①目的に適合した情報収集の手段を身につける、②正しい食情報にアクセスし、活用・発信できる能力を身につける、③地域の食関係の公的・民間組織と連携をはかることができる、④実施の結果を評価・フィードバックする能力を身につけることが、到達度（学生が身につける能力）として考えられる。
販売弁当に食事バランスガイドなどの栄養情報のチラシを添付させる動向があるが、地域社会の中で、今だに知識として浸透してっていないのが現状である。
- 2) 授業シナリオは、ICT 活用との関連で今後、考えていく。
最後の発表会は、ICT を活用したものでなく、対面式で話し合いを行う方が効果的である。
- 3) 「食環境づくりの実践」という学習段階を発展させた内容として、企業・地域・大学の産官学連携の教育モデルを今後、考えていく。

【学士力 5 について】

- 1) 学士力の到達目標である栄養マネジメントを実施できることについての教育モデルとして、応用栄養学実習の一環として、実施されている内容が提示された。
到達度として、学生に身につけさせる能力として、①身体計測、臨床診査、臨床検査、食事調査の data の数値を読み取り、異常値かを判定する力、②異常値から対象者の身体状態、疾患名を判定する力、③栄養ケアプラン（食事摂取基準量の設定、献立）が考えられる力、④モニタリング（実施上の問題点の評価・判定）方法を考える力があげられた。
モニタリングとして、自分の生活の中に取り入れ、実践して欲しい内容、自分の取り

組み方法などについてネット上に掲示させるようにしてはどうかという案が提示された。

- 2) 個人情報保護のため、実際の症例 data を活用することには、種々の問題が生じるため、数多くの模擬症例を教員が考えないといけないので、大変でもある。
①分散している情報をネット上から収集させる、あるいは②家族の data を収集させる、③授業環境として、他大学と協力し、症例の保存ファイルを構築するなどの情報システムをつくるというのは、どうだろうかとの意見が述べられた。
- 3) ICT 活用の授業運営上の課題に提示されたカメラ、音声を通した栄養教育（教員・学生間の双方向なやりとり）の実施は、学生同士のディスカッション、発想の場として効果的ではないかというのは、ICT を活用した授業デザインに記載していく方がよい。
- 4) 学習環境として提示された自主学習システム（LMS）は、掲示板として活用していく。
- 5) 栄養ケアポイントの例は、対面式でディスカッションをさせ、この「学び」の内容を整理させるために、ICT によるディスカッションを実施する。「学び」を確認させることは、対面式でないと効果が上がらない。
- 6) ICT を活用するけれど、ICT の限界はここまでであるという内容を、授業設計の中で主張し、まとめていくとよい。

【学士力 4 について】

学士力 4 の食事・栄養療法について科学的根拠で説明する能力をつけさせるための他大学や病院との連携による教育モデルについては、医師との連携が必要になり、臨床モデルを病院とどこまで共有できるかが課題である。

臨床現場における管理栄養士の業務とその現状についての意見が述べられ、現時点では、臨床栄養学を教える場は少なく、多くの大学で食品学の教育を主に置いている。そこで、この教育モデルを考えることは難しいが、これからの授業を展開させていくためには、今後考えていかなければならない。

【学士力 2 について】

学士力 2 の栄養・食品・調理の理解に基づいて、個人・集団の健康維持・増進、疾病予防の活用に発展させることができる教育モデルについては、臨床栄養学の授業内容について、予習をさせておき、すぐにミニテストを実施し、携帯電話で解答を入力させていく。どの問題ができていないか、誰がどれくらい PC を活用して学習したかがわかる。電車の中で予習問題を考えることもできるし、成績の中に加えていくので、授業中に眠る学生がいなくなり、授業効果は上がった。予習・テスト・復習と一連の教育に PC を活用している。

- V. 今回に提示した教育モデルをもう少し修正してまとめ（A4 サイズ・2～3 ページ）、11/20 までにメーリングリストに掲示する。そして、ネット上で次回の会議までに内容について、論議しておく。1 教育モデルの掲載ページの予定（3 ページ程度）。

VI. 次回の委員会開催予定

日時：平成 22 年 12 月 4 日（土）、16：00～18：00

場所：私立大学情報教育協会事務局・会議室